音楽科

教科領域研究テーマ

【自分の気持ちや考えを表現し，伝える力の育成
― 主体的に思いや意図をもって表現したり
味わって聴いたりする学習活動の工夫 ―】



音楽科

自分の気持ちや考えを表現し，伝える力の育成

― 主体的に思いや意図をもって表現したり味わって聴いたりする学習活動の工夫 ―

実　践　者　三棟　優子
愛媛大学研究パートナー　井上　洋一，楠　　俊明

第１章　はじめに

研究テーマ設定の理由について

音楽科の本質は，音楽の面白さやよさ，美しさを感じ，音楽を楽しみながら生活を豊かにしていくことにある。その本質に迫っていくために，音楽の面白さやよさ，美しさを子どもたちが自ら見い出し，音楽を楽しむことのできる，「音楽に対する見方･考え方」を育むことが求められる。「音楽的な見方･考え方」は音楽科の特質から導いた学びの本質的意義であり，まさに音楽科で培った資質・能力を生かして，自分の幸せ，社会の幸せを創造する基となるものである。

そこで，今年度音楽科では「持続可能な社会を支える資質・能力の育成」のために，「自分の気持ちや考えを表現し，伝える力」の伸長を目指すこととした。また，育成すべき論理的に思考し表現する力を「音を媒介として，自己のイメージや感情などの感性と音楽活動を通して習得した知識や技能を結び付けて，思いや意図をもって表現する力」とした。

音楽活動を通して得られた知識や技能を自己のイメージや感情と関連付けるということは，人間と音楽との関係の根幹に関わるものである。音楽に対する感性を働かせて音楽のよさや楽しさ，美しさを感じ取り，学び合いを通して，主体的に思いや意図をもって表現したり味わって聴いたりする力を育てることが持続可能な社会を支える資質・能力の育成につながると考え，研究テーマを設定した。

第２章　研究の実際

１　研究の内容及び方法

(1)　生徒の実態把握

(2)　主体的・協働的な学びの工夫

○学習課題，教材提示と発問の工夫

○生徒一人一人が知覚・感受する場面と，それを共有し，個々の知覚・感受を広げ深める場面の工夫

(3)　音楽科の特質に応じた言語活動の工夫

○音楽を形づくっている要素の働きと関連付けながら，楽曲の特徴などを生徒同士が共有するための場面設定の工夫

○知覚・感受したことを，生徒が音や言葉で表現するための工夫

２　研究の実際

(1)　生徒の実態

生徒は今年度鑑賞の授業で「小フーガト短調」を教材に「旋律の表れ方や重なり方を理解して」という題材で学習した。曲の第一印象を述べる際に，「不思議な感じがする」「教会の響きがする」など感受したことだけを聴き取る生徒が38%，「楽器の音色の音程の幅が広い」「同じ旋律が繰り

返されている」「強弱の変化はない」など知覚したことだけを聴き取る生徒が42%に分かれ，感受したことと知覚したことを結びつけて聴き取る生徒は20%と少なかった。学習を進めていく中で，楽曲のよさや美しさ，面白さを見つけ出し，それぞれの効果を音楽の諸要素と結びつけ，音楽の仕組みなどと関わらせて聴こうとする力を身に付けさせたい。

(2) 論理的に思考し表現する力を高めるための工夫

組曲「展覧会の絵」で各所に現れるプロムナードに注目し，同じ旋律でも楽器や調，強弱，速度など諸要素により，気分や雰囲気を変えて表現できる音楽のおもしろさを感じ取らせたい。小集団活動を取り入れ，話し合うことにより，様々な考えに気付かせ，より鑑賞の意欲を高めさせたい。また，題材となった10枚の絵画を示し，絵から受ける雰囲気と，音楽表現の巧みさ，あるいは意外性を感じ取らせたい。楽器使いの工夫などを理解させ，オーケストラの豊かな音楽表現を味わわせたい。

(3) 授業の実際

ア 指導の実際

(ア) 題材名 オーケストラの豊かな表現

教 材 組曲「展覧会の絵」から ムソルグスキー作曲 ラヴェル編曲

(イ) 題材の目標

○絵画を鑑賞した印象をもとに音楽を聴き取り，選んだ音楽に対して，音楽の諸要素を提示し，根拠を持って説明することができる。

○オーケストラの響きや曲想の変化を味わって鑑賞することができる。

(ウ) 逆向き設計を活用した指導計画

<table>
<tr><th colspan="2">第1段階：求められている結果</th></tr>
<tr><td colspan="2">本題材における設定されている目標 【G】goals
(a) 研究テーマに対して：
○絵画を鑑賞した印象をもとに音楽を聴き取り，選んだ音楽に対して，音楽の諸要素を提示し，根拠をもって説明することができる。
○オーケストラの響きや曲想の変化を味わって鑑賞することができる。
(b) 「論理的に思考し表現する力」に対して：
○絵画を鑑賞した印象をもとに，音楽を形づくっている要素や曲想などの音楽を聴き取り，まとめることができる。
○選んだプロムナードについて，友達に根拠を持って説明することができる。</td></tr>
<tr><td>永続的な理解： 【U】understanding
オーケストラの豊かな響きとは，オーケストラに含まれる弦楽器，管楽器，打楽器などのあらゆる楽器の音色などを効果的に組み合わせていくことから生まれる。作曲の基となった絵画を鑑賞し，絵画とどのように関連して作曲されているのか，音楽全体の構成を理解する。絵から受ける雰囲気と音楽表現の巧みさ，意外性，楽器の使い方の工夫などを理解する。</td><td>本質的な問い： 【Q】questions
オーケストラの豊かな響きはどのようにして生まれるのだろうか。</td></tr>
<tr><td>生徒は次のことを知る 【K】knowledge
○絵画と対応して音楽が構成されていることを理解する。
○オーケストラによって色彩豊かな表現がされていることを知る。</td><td>生徒は次のことができるようになる 【S】skills(a)
(a)について
○オーケストラによって色彩豊かな表現を味わって聴くことができる。
○プロムナードや絵画と関係する各楽曲を表す様々な旋律とそれを表現する楽器を聴取し，音色や旋律を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら鑑賞することができる。</td></tr>
</table>

生徒は次のようなことができるようになる　【S】skills(b)
(b)について ○作曲のもととなった絵画を鑑賞し，絵画とどのように関連して作曲されているのか，音楽全体の構成を理解し，説明することができる。 ○絵から受ける雰囲気が音楽でどのように表現されているのか，楽器の使い方や意外性，巧みさなどの工夫を自分の言葉で根拠を持って説明することができる。

第２段階：評価のための証拠

(a)に対して	他の根拠　【ＯＥ】other evidence(a)
パフォーマンス課題 あなたは音楽プロデューサーです。今度のコンサートでムソルグスキー作曲の「展覧会の絵」を上演することにしました。あなたは，原曲のピアノ版での演奏を選びますか？それともラヴェル編曲のオーケストラ版での演奏を選びますか？選んだ理由も含めて答えなさい。	• オーケストラの楽器の選択や組み合わせにより，豊かな響きが生まれることを理解しているか。 • 楽器の音色や強弱の変化など，音楽の諸要素を知覚し，自分の言葉で説明できているか。 （ワークシートの記述）
(b)に対して ワークシートに，プロムナードを選んだ理由を音楽の諸要素を知覚し，記述できているか。	他の根拠　【ＯＥ】other evidence(b) • グループ活動の様子　（観察） • ワークシートの記述

(エ)　評価計画

評　価　目　標	評　価　方　法
①音楽の構造と曲想との関わりや，音楽の特徴と絵画との関連に関心をもち，鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。（音楽への関心・意欲・態度） ~~（音楽表現の創意工夫）~~ ~~（音楽表現の技能）~~ ②音色，リズム，速度，旋律，テクスチュア，強弱，構成などの要素を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受している。 ③音楽の特徴をその背景となる文化や他の芸術と関連付けて理解して，解釈したり価値を考えたりして鑑賞している。 ④要素や構造と曲想との関わりを理解して聴き，根拠をもって批評するなどして音楽のよさや美しさを味わっている。（鑑賞の能力）	◎パフォーマンス課題 あなたは音楽プロデューサーです。今度のコンサートでムソルグスキー作曲の「展覧会の絵」を上演することにしました。あなたは原曲のピアノ版での演奏を選びますか？それともラヴェル編曲のオーケストラ版での演奏を選びますか？選んだ理由も含めて答えなさい。（評価目標の①②③④） ○観察　（評価目標の①②） ○ワークシート　（評価目標の①②③④）

(オ)　指導計画（全３時間）

学　習　内　容	◇評　価　規　準　（観　点）	時間
○組曲「展覧会の絵」が，絵画と関連して音楽が作曲されていることを理解する。 ○「グノーム」「ビドロ」「卵の殻をつけたひなどりのバレエ」の３曲について，絵画から受けるイメージや雰囲気と音楽との関わりを感じ取る。	◇音楽の特徴と絵画との関連に関心を持ち，自分の思いや意図を自分の言葉で表そうとしている。（関心・意欲・態度） ◇音楽を形づくっている要素同士の関わりによって生み出される楽曲の雰囲気や曲想の変化を聴き取っている。（鑑賞の能力）	1
○絵から絵と歩く作曲者の感情や気分を，各プロムナードでどのように表現しているか，曲想の変化を感じ取り，オーケストラの表現を味わって鑑賞する。	◇音色，リズム，速度，旋律，テクスチュア，強弱，構成などの要素を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受している。（鑑賞の能力） ◇要素や構造と曲想との関わりを理解して聴き，根拠を持って説明したり批評したりするなどして音楽のよさや美しさを味わっている。（鑑賞の能力）	1 本時
○組曲「展覧会の絵」の第10曲目「キエフの大門」のオーケストラ版とピアノ版を比較鑑賞し，音楽全体の構成と曲想などをまとめ，パフォーマンス課題について考える。	◇要素を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，音楽の構造と曲想との関わりや，音楽の特徴をその背景となる歴史と関連付けて理解して，解釈したり価値を考えたりし，鑑賞している。（鑑賞の能力）	1

㈦ 本時の指導（2／3）

① 主　題　プロムナードを選ぼう

② ねらい

○曲想の変化を聴き取り，オーケストラの表現を味わって鑑賞する。

○自分の思いや意図を，他者に対して根拠となる音楽の諸要素を提示し説明することができる。

③ 展　開

学習活動（形態）	時間	○教師の働きかけ　・生徒の反応	○指導の工夫　◇評価(方法)
1　前時の復習で「第４曲」と「第５曲」を聴く。 （一斉）	7	○「第４曲」と「第５曲」の絵の印象と音楽との関わりを確認しよう。	○10枚の絵を実際に飾り，展覧会の様子を再現した。 ○前時の復習が一目で分かりやすいように，板書でまとめた。
2　プロムナードについて理解し，本時の目標を確認する。 （一斉）	3	○プロムナードについて説明する。 「第４曲」と「第５曲」の間で演奏されるプロムナードを選ぼう。	○プレゼンテーションでまとめた。
3　３つのプロムナードを鑑賞し，曲想を感じ取る。 （個人）	10	○３つのプロムナードを鑑賞し，曲想を感じ取り，適したプロムナードを選ぼう。 【どんな音楽？】 A　トランペットの明るい音色から始まる。全体的に明るい。伴奏が優雅なイメージ。メロディーを演奏する楽器が次々と変わる。明るい感じから希望を感じる。最後のrit. がきれい。 B　柔らかい音色の楽器がメロディーを演奏している。楽器の種類が少ない。穏やかな感じ。オーボエの音色から懐かしい感じがする。ホルン？ユーフォ？とにかく中音域の音が好き。 C　フルートやオーボエなどの高音木管楽器から始まり，低音が入ってくる。短調で暗い感じがする。全体的に重々しい。終わりがすごく盛り上がる。悲しい。低音が不安さを引き立てている。	**○なぜそのプロムナードを選んだのか班員に伝えられるように，理由をワークシートに記入させた。** ◇オーケストラの多彩な表現から，曲想の変化を聴き取り，自分なりの答えを導き出している。 （ワークシート）
4　班で意見を出し合い，一つに答えを絞る。 （小集団）	10	○班員全員の意見を聴き，納得いく答えを選び，理由も含め発表資料に書こう。	○自分の意見とは異なる他者の意見をワークシートに違う色で書かせた。





小集団での意見交換の様子

5　本時の課題を追求する。 （全体）	15	○なぜそのプロムナードを選んだのか根拠を示しながら説明しよう。 【選んだ理由】 A　ビドロは少し悲しい雰囲気の曲だから，次はどんな絵だろうと高まる気持ちをトランペットの音色で第５曲の明るく軽やかな感じにつなげていると思ったから。 B　ビドロの主旋律がユーフォニアムで似たような音色のホルンで吹いている。途中からフルートやオーボエが入ることで少しずつ明るくなっていき，そのまま第５曲につながると思ったから。 C　出だしの楽器の音色が第５曲の始まりと似ていたから。ビドロは絵の印象が重々しくて，不気味だったので，短調で重々しく不気味で悲しい感じの音楽だったから。 ○残りの二つのプロムナードがどこに入るのかを含め，正解を伝える。 A　第２曲「古城」と第３曲「チュイルリー」の間のプロムナード B　第１曲「グノーム」と第２曲「古城」の間のプロムナード C　第４曲「ビドロ」と第５曲「卵の殻をつけたひなどりのバレエ」の間のプロムナード	◇選んだプロムナードについて，他者に対して音楽の諸要素を提示し，根拠をもって説明することができる。（観察，発表資料）  班の意見を発表  自分の意見を全体の場で
6　ラヴェルの気持ちになって考え，本時の学習内容を振り返る。 （個人）	5	○どうしてラヴェルは，このプロムナードに対して，このようなオーケストレーションにしたのだろう。	

プロムナードは同じ旋律をもとに作られているのに，調や使われている楽器によって印象が違っていて，ムソルグスキーの感情が豊かに表現されており，さすが音の魔術師だなと思った。トランペットの冒頭のプロムナードしか聴いたことがなかったけれど，どの楽器で演奏してもかっこいいなと思った。

本時の学習を振り返っての感想

イ　考察

パフォーマンス課題でオーケストラの編曲を選択した生徒は96名，原曲のピアノ版を選択した生徒は57名であった。パフォーマンス課題で用いたルーブリックによる評価の結果（２年生４クラス153名対象），生徒の記述は以下の通りであった。

A	B	C
楽曲全体の流れを把握し，ポイントとなる音楽を形づくっている要素や要素同士の関わりから生み出される曲想を感じ取り，それらの中から理由を二つ以上あげている。	楽曲の一部分について，ポイントとなる音楽を形づくっている要素や要素同士の関わりから生み出される曲想を感じ取り，それらの中から理由を一つあげている。	音楽から感受したことのみを理由にあげている。
103人	42人	８人

私はラヴェルによるオーケストラ版を選びます。その理由は二つあります。一つ目は，迫力がすごいところです。たくさんの楽器を使っているため，盛り上がるところは音が何重にも重なって深みを出しながら，広大なイメージを出しています。二つ目は，様々な音色があることです。金管楽器の鋭い音，弦楽器の伸びやかな音，ハープの柔らかい音や鐘まであって様々な音が響き合っていました。また，それらの音色を生かして絵画の雰囲気を音楽で表していました。このような理由から私はオーケストラがいいと思いました。

私はピアノ版を選びます。理由は三つあります。一つ目は和音の美しさです。オーケストラとは違い，一つの楽器で演奏することでピアノの音色で和音を感じることができます。それが美しいまとまりに感じました。二つ目は強弱や演奏者の身体全体から迫力を感じることができるからです。三つ目はピアノの部分のまろやかさです。ペダルで余韻を残す部分が気に入りました。以上のことから私はピアノ版を選びます。

A評価の生徒の記述

3　成果と課題

(1)　主体的・協働的な学びの工夫

音楽室に10枚の絵画を掲示し，展覧会の雰囲気を創り出すことで，作曲者の心情に迫る疑似体験をすることができた。また，板書やプレゼンなどにより，今何をすべきなのか，学びの段階を子どもたちに提示することができた。授業展開の中で，自分の考えを持った上で小集団活動を行ったため，話合い自体は活発に行わせることはできた。しかし，机のない教室環境での授業では，小集団の話合いの隊形作りや下敷き用のボードを用意するなど，環境面を整えなければならないと感じた。

(2)　音楽科の特質に応じた言語活動の工夫

本時において，活発な話合い活動はできたが，音楽を形づくっている要素の働きと関連付けながら説得力のある根拠を提示して合意形成をするまでには至らなかった。来年度，この題材のもとで授業を展開するのであれば，正解のあるプロムナードを選択させるのではなく，ラヴェル以外の作曲家がオーケストラ版に編曲している音源や原曲のピアノ版の音源と比較鑑賞させることで，ラヴェルの楽器の組み合わせ方の工夫やオーケストラの豊かな表現など味わわせ，題材のねらいに迫っていきたい。

また，パフォーマンス課題の提示の仕方を工夫する必要があると感じた。パフォーマンス課題を遂行していくにあたり，教師の形成的評価と子どもの自己評価を一致させるには，両者間でルーブリックを共有することが大切であると研究後に痛感した。音楽を形づくっている要素や要素同士の関わりから生み出される曲想を感じ取り，それらから理由を見つけ出すだけではなく，絵画と音楽の特徴を関わらせて聴き取り，音楽から感じ取ったことを自分のこれまでの経験に置き換えたり，自分の言葉でまとめたりするなど，評価の視点を自覚させた上で，パフォーマンス課題に取り組ませたい。

第3章　おわりに

問答ゲームなど，論理的思考や表現力の育成に学校全体で取り組んでいる成果は大きく，日々の学習活動の話合いや発表の中でも，まず結論を述べ，次のその根拠となる重要な要素を筋道を立てて述べることができるようになってきた。

しかし，今年度の研究では，音楽科が育むべき「言語活動の充実」は不十分であった。来年度は，音楽科における言語活動は「表現や鑑賞における学びを充実させるための手立て」と捉え，音楽活動と言語活動を効果的に往還させるなど，指導法の改善を図っていきたい。そして，生徒の「音と言葉によるコミュニケーション力」を高める授業展開を工夫していきたい。

参考文献

西岡加名恵（2008）「『逆向き設計』で確かな学力を保証する」明治図書
西岡加名恵（2016）「『資質・能力』を育てるパフォーマンス評価　アクティブ・ラーニングをどう充実させるか」明治図書
薄田茂樹，原田信之（2013）「中学校音楽科鑑賞領域におけるパフォーマンス評価の導入」岐阜大学教育学部　教師教育研究９